

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：村山 一弥

事業名	一般国道208号 <small>ありあけかいえんがんとろう</small> 有明海沿岸道路（大牟田～大川） <small>おおむた おおかわ</small>		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：福岡県大牟田市新港町 至：福岡県大川市大野島				延長	27.5km
事業概要						
有明海沿岸道路（大牟田～大川）は、陸海空の広域交通ネットワークを形成し、地域間の連携・交流を促進するとともに、並行する国道等の混雑緩和・安全性の向上を図る重要な幹線道路である。						
S63年度事業化	S10年度都市計画決定 (H19年度変更)	H2年度用地着手	H12年度工事着手			
全体事業費（※1）	約2,525億円	事業進捗率	73%	供用済延長	23.8km	
計画交通量（※1） ：22,000～43,700台/日						
費用対効果分析結果（※1）	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 3.6	総費用 ： (残事業)/(事業全体) 669/2,845億円 〔事業費：624/2,723億円〕 〔維持管理費：45/123億円〕	総便益 ： (残事業)/(事業全体) 2,410/5,669億円 〔走行時間短縮便益：1,979/4,731億円〕 〔走行経費減少便益：241/607億円〕 〔交通事故減少便益：191/332億円〕	基準年 ： 平成26年		
感度分析の結果（※1）						
【事業全体】交通量：B/C=1.8～2.2（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.9～2.0（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.0～2.0（事業期間±20%）						
【残事業】交通量：B/C=3.2～4.0（交通量 ±10%） 事業費：B/C=3.3～4.0（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=3.6～3.7（事業期間±20%）						
事業の効果等						
①広域交通ネットワークの形成：沿岸8都市を高速でつなぎ、所要時間を短縮						
②地域の活性化：広域交通拠点及び物流拠点の三池港へのアクセス改善、地域開発計画の支援						
③交通混雑の緩和：並行する国道208号の交通混雑の緩和						
④交通安全性の向上：並行する国道208号の交通死傷事故発生件数の減少						
⑤災害時の移動経路確保：国道208号の代替路となり、災害時の緊急輸送道路としての機能						
⑥医療施設までのアクセス改善：第三次救急医療施設（佐賀県医療センター好生館）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上						
⑦生活環境の改善：自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）						
関係する地方公共団体等の意見						
大牟田市をはじめとする4市で構成される①有明海沿岸道路建設促進福岡県期成会（会長：大牟田市長）、有明海沿岸道路沿線市町村で構成される②九州中部商工連合会（会長：大牟田商工会議所）により早期整備の要望を受けている。（①平成29年8月、②平成29年9月）						
県の意見						
（福岡県）有明海沿岸道路は広域的な連携を担う地域高規格道路である。本道路の整備は、県南地域の発展に大きな弾みをつけ、更には県全体の経済的な発展に寄与することが、期待される。						
従って、「対応方針（原案）」案のとおり事業を継続すべきと考える。						
（熊本県）今回意見照会のありました一般国道208号有明海沿岸道路（大牟田～大川）に関する国の「対応方針（原案）」案については、異存はありません。						
なお、有明海沿岸道路（大牟田～大川）から連続する有明海沿岸道路（Ⅱ期）は、有明海沿岸部の主要都市や拠点を連絡する地域高規格道路であり、九州自動車道などの高速道路網を補完し、一体となってネットワークを形成する自動車専用道路です。そのため、県としては従来から全線の国直轄による整備をお願いしているところです。						
現在事業中の三池港IC連絡路と併せて、長洲町までの区間につきましても、国直轄により遅滞なく整備していただきますよう特段の御配慮をお願いいたします。						

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は福岡県及び九州全体よりも多い。国道208号現道の交通量は横這い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和63年度に事業化、用地進捗率96%、事業進捗率73%（平成29年3月末時点）

- 平成19年度：大牟田IC～高田IC間 延長9.8km (2/4) 部分開通
柳川西IC～大川東IC間 延長2.4km (2/4) 部分開通
- 平成20年度：高田IC～大和南IC間 延長2.0km (2/4) 部分開通
- 平成23年度：三池港IC～大牟田IC間 延長1.9km (2/4) 部分開通
- 平成24年度：大和南IC～徳益IC間 延長3.2km (2/4) 部分開通
- 平成29年度：徳益IC～柳川西IC間 延長4.5km (2/4) 部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

※1 前回評価結果を用いて記載したもの。